科目番号	54024	分類	専門科目 公衆衛生看護学実習	履修者	高度実践公衆衛生看護コース	学年
科目名	公衆衛生看護学実習Ⅰ （Practical Training in Public Health NursingⅠ）					1 配当ｾﾒｽﾀｰ 後期

担当者	○駒田真由子　他１名	区分	必修	単位	4	時間数	180

授業の概要および目標	学位授与の方針との関連	
【目　的】 保健所や保健センターといった公衆衛生看護活動の場において，地域の健康課題を解決する仕組み，公衆衛生看護活動技術，公衆衛生看護の展開過程，危機管理について，保健師の役割を通して実践的に学ぶ。 【実習目標】 1）公衆衛生看護活動を行うにあたって，地域診断を行い地域の健康課題を抽出し，明らかにすることができる。 2）健康課題を解決するために，効果的な保健事業を企画・立案，実施，評価する過程を理解する。 3）個人・家族・集団に対して健康課題解決のための手法を選択して実践できる。 4）社会資源の開発や地域ケアシステムを構築するための方法を理解する。 5）施策化に必要な根拠とプロセスを理解する。 6）地域の人々が自らの健康について自己決定するための支援について理解する。 7）健康危機管理に対して，組織的な管理体制やシステムの構築の必要性について理解する。 8）公衆衛生看護活動の専門職としての自覚をもち，自分の行動を総合的に評価し，自らの保健活動の資質向上のための方策を考えることができる。	○	1.多様な課題に対応する高度な実践力
	○	2.地域住民の自立を支える統合的支援能力
	○	3.地域の健康課題を科学的にアセスメント・分析する能力
	○	4.政策や保健事業を開発する能力
	○	5.災害対応や振興・再興感染症への危機管理能力
		6.公衆衛生看護・公衆衛生行政に繋がる研究能力

実習計画

1） コミュニティアセスメント論およびコミュニティアセスメント演習で学んだ地域診断の手法を用いて，自身が実習する地域を事前にアセスメントし，その地域の健康課題を抽出する。抽出した健康課題とその対応策について，実習期間中に指導者の前でプレゼンターションを実施し，指導者より評価を受ける。
2） 受け持ち地区の健康課題の一部を解決するために家庭訪問，健康教育，健康相談などの保健事業を計画・実践する。
3） 実習期間中，母子，精神，成人など複数のケースの同行訪問を実施する。同行訪問に際しては，対象の把握方法，地区活動における動向事例の優先順位の位置付け，事前準備の実施，訪問事例のアセスメントと計画，訪問実施後の評価およびカンファレンスを実施する。
4） 地域の健康課題や住民のニーズから健康教育の手法で解決すべき課題を選択し，企画立案から実施後の評価までの一連の流れを 1 回以上実施する。健康教育を効果的に行うために，学生が主体となって健康教育の実施日，実施場所，対象，周知方法なども指導者とともに検討する。
5） 地域で実施される各種健康相談について，法的根拠，目的，対象者，方法，内容についての説明を受け，見学を通して事業の実際と評価について検討するとともに，今後の支援の方針について考察する。
6） セルフヘルプグループに参加し，その成り立ち，必要性，育成，自立に向けての支援を理解するとともに，その中における保健師の役割を考察する。
7） 地区組織活動に参加し，地域の健康課題との関連を整理し，住民協働の必要性や方法について理解するとともに，その中における保健師の役割を考察する。
8） 実習施設において行われている事業の予算，執行管理について保健師より説明を受け，施策化の一連の流れとその中での保健師の役割について学ぶ。また，自分たちの実施した地域診断や実習中に経験した内容を統合して，新たな施策化の必要性についてプレゼンテーションを実施する。
9） 実習地域の防災計画，健康危機管理基本方針・計画を事前に学習した上で，実習施設における過去の災害における保健師活動の実際について説明を受ける。

事前・事後学習	事前学習：実習先の健康課題のアセスメントならびにそれを解決するための健康教育について準備してから実習に臨むこと。 事後学習：自身の実習記録や指導者よりカンファレンス等で受けた指導について復習すること。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に取り組むこと。
評価の方法	実習への参加および目標の達成状況（80%），レポート課題（20%）から総合的に評価する。
参考図書・資料等	適宜紹介する。
履修要件	1 年次前期に開講されている科目の全ての単位を修得していること。
備　　考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。